

野外活動の留意事項

必ず一読してください。

近年、県下でもマダニや熱中症による死亡事故も増えている現状から、野外活動の安全対策は必要不可欠な事と思います。

貴団体におかれましても充分対策を考えておられると思いますが、一般的な留意事項を書きまとめましたので、ご活用をお願いします。

楽しい野外活動も、安全上の注意を怠ると悲しい事故につながる危険が待ち受けています。事故が起きると、被害者が辛い思いをするばかりでなく、主催者（指導者）側への責任問題へと発展することも考えられます。安全管理に対する正しい理解と具体的な対策をしておくことで、事故を未然に防ぎましょう。

1 安全管理の基本的な考え方

- ・想定できる危険を予知し、そのための対策を徹底的に行いましょう。
- ・万が一の時を想定して対策を練っておくとともに、利用団体の長は引率者に対する教育を徹底して行いましょう。
- ・参加者には自分の身の安全は自分で守ることを徹底させ、「自己責任」の考え方で様々な活動に臨むということを身につけさせましょう。
- ・参加者が未成年の場合は、保護者に活動の趣旨、内容などきちんと伝えたくて参加してもらいましょう。

2 参加者自身に安全対策の意識を

野外の活動では、子どもたちの中に危険を予知する能力、危険を避ける行動や態度などが、実体験をとおして身に付く絶好の機会です。「危険だからやめなさい」ではなく、参加者自身にどこにどんな危険がひそんでいるのか、何が危険なのか、どうすれば防ぐことができるのかなどについて、あらかじめ考える機会をつくったり、主体的に身を守る意識を持たせたりして活動に入りましょう。

3 様々な危険

- ・動植物が原因（毒ヘビ、ハチ、ムカデ、マダニ、ハゼ、カヤなど）
- ・気象条件（天候の急変、落雷、強風、台風など）
- ・地形的条件（転落、落石、急斜面、岩場など）
- ・水的条件（水温、水深、水流など）
- ・活動技術（道に迷う、転ぶ、落ちる、溺れるなど）
- ・用具の操作技術（切り傷、やけど、刺し傷など）
- ・疲労や心理的要因（判断ミス、パニック、過度の興奮など）
- ・心身の健康状態と衛生管理（発熱、熱中症、生理痛、便秘、下痢、食中毒など）
- ・指導者側の過失（無理な計画、下見の未実施、引率者相互の共通理解不足など）
- ・その他（移動の際の交通手段など）



4 事前にしておくこと（チェックして備えましょう）

- 綿密な計画案及び安全上のチェック
- 下見の実施と自然の家職員との打ち合わせ
 - ◎時期
計画作成段階（1ヶ月前）で最低1回は実施し、できれば直前に再度実施することをお勧めします。
 - ◎下見を行う引率者
引率者全員が揃って行うことが理想的です。できない場合は、ビデオやカメラなどの画像をとおして後日確認するなどしましょう。
 - ◎下見のポイント
 - ・コース及びエリアの確認
 - ・コース上想定される危険と対処方法
 - ・引率者の配置
 - ・車両輸送路の確認
 - ・救急医療機関の確認
- 計画の再点検
- 参加者及び参加者の保護者への事前説明会の実施
保護者説明会がどうしてもできない場合は、文書での説明と参加にあたっての同意を得ておきましょう)
- 傷害保険への加入
- 救急医療品の準備
- 緊急体制の整備とその運用及び救急処置についてのリハーサル
- 引率者全員での安全管理上の最終確認



5 実施中の安全管理

- ・気象条件の把握（現状把握、予報、過去1週間の天候、土砂崩れや落石の予知
- ・危険箇所の現状確認
- ・移動の際の安全管理
- ・参加者の人数及び健康状態の把握
- ・心身両面での配慮が必要な人の把握
- ・引率者の配置と円滑な連絡
- ・指導者自身の安全管理と健康管理
- ・万が一の時を想定して冷静に判断できる体制



6 万が一の時の対応

- ・冷静に判断する
- ・無理をせず自分自身の安全管理を忘れない
- ・事故者以外の人たちの安全管理をする
- ・周囲の状況や事故者の様子を把握し、直ちに何をすべきか判断し行動に移す
- ・団体の責任者及び自然の家への連絡を行い、状況によっては指示を仰ぐ

7 応急処置

【傷口の消毒】

- ① 水で洗い流す
- ② 消毒・殺菌をする
- ③ 傷口の保護をする



【出血を止める（止血法）】

- ◎ 傷口をおさえる
(ひどい出血でない限り、清潔な布またはハンカチやタオルで傷口を強く圧迫する。通常、この処置でかなり効果がある)
- ◎ 傷口を高く上げる
(出血が止まらない場合は、傷口をおさえたまま心臓より高く上げる)
- ◎ 局部的に血液の流れを止める
(素人が行くと取り返しのつかない時があるので、あくまでも最終的な手段)

※すり傷などの軽傷で十分な対応が可能な症例以外は、あくまで医師の治療を受けるまでの応急処置と心得ておいてください。どちらか悩む時は、必ず医師の診断を仰ぐべきです。

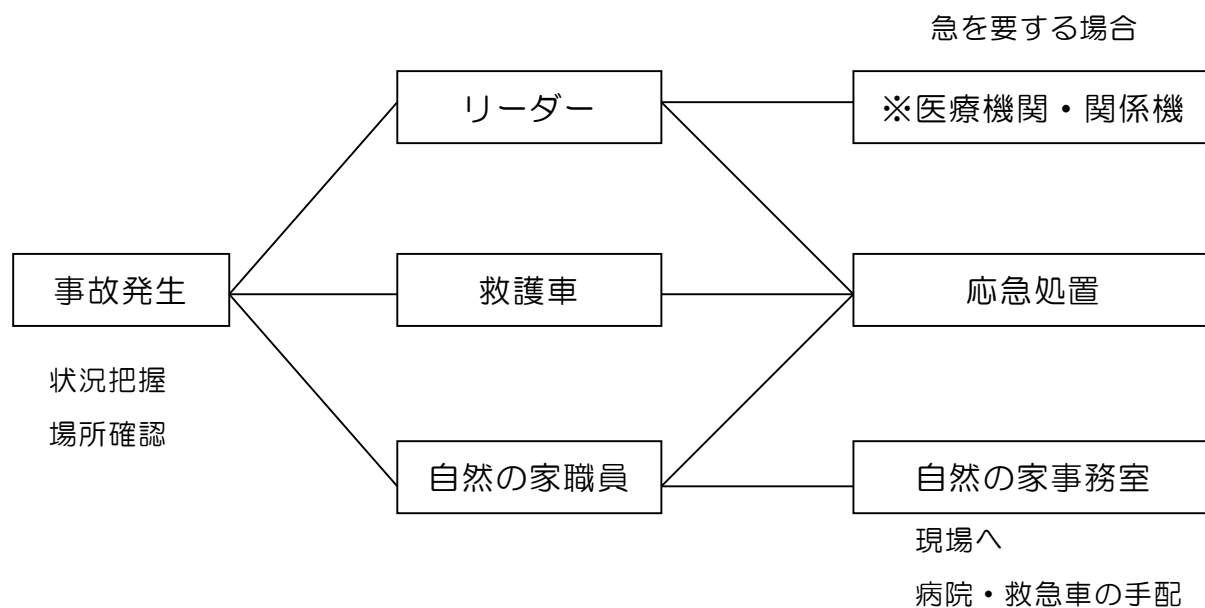
8 救急セットの準備



(準備例)

- | | | | |
|-----------------------------------|---|----------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 消毒液 | <input type="checkbox"/> 傷口ばんそうこう | <input type="checkbox"/> 三角巾 | <input type="checkbox"/> 包帯 |
| <input type="checkbox"/> ガーゼ | <input type="checkbox"/> テーピングテープ | <input type="checkbox"/> 湿布 | <input type="checkbox"/> 虫よけ |
| <input type="checkbox"/> とげ抜き | <input type="checkbox"/> 脱脂綿 | <input type="checkbox"/> 生理用ナプキン | |
| <input type="checkbox"/> 抗ヒスタミン軟膏 | <input type="checkbox"/> ポイズンリムーバー（毒抜き） | | |

9 事故やけが等が発生した場合



医療機関

宇城総合病院 0964-32-3111

宇城市民病院 0964-32-0335

熊本南病院 0964-32-0826

狩場病院 0964-45-2017

温石病院 0964-46-3000

清水整形外科 0964-32-2207

安武眼科 0964-32-0733

日赤救命救急センター 096-384-2111 ※非常夜間時

熊本地域医療センター 096-363-3311 ※非常夜間時



関係機関

宇城消防署豊野分署 0964-45-3778

